タレブ『まぐれ』の要約

寺尾敦

# 第３章　歴史を数学的に考える

この章では，第２章で説明された「違った歴史」を実際に構成する方法として，モンテカルロ法を紹介している．モンテカルロ法を用いれば，特定の歴史がどれくらいの確率で生じるかを調べることができる．この方法では，起こりうる事象あるいはサンプル経路（時間軸にそった事象系列）を何度も生成する．

人は歴史から学ばない．吹き飛ぶトレーダーは，これまでにも多くのトレーダーが吹き飛んだという歴史から何も学んでおらず，もっともらしい理屈で自分はひどい目には合わないと思い込んでいる．この世界では重大な事象はしばしば予測できない．過去を振り返ったとき，ある事象の生起はあらかじめ予測可能であったように思える．しかしこれは錯覚である．こうした錯覚に陥る人は，将来の予測能力を過信する．

短期的な観察で得られる情報はシグナルに対するノイズの比率が高い．長期的な観察を行えばこの比率は低下し，有意味なシグナルがはっきりする．モンテカルロ法での十分に長いサンプル経路は似た結果に行き着く．この性質はエルゴード性と呼ばれる．

# 第４章　たまたま、ナンセンス、理系のインテリ

モンテカルロ・ジェネレータを使うと，文系の論文と見分けがつかないような文章を作り出すことができる．チューリング・テストはコンピュータに知能があるかどうかをテストするが，コンピュータで作成した文章を使って人間に知能あるかどうかをテストすることができる．理系ではランダムに生成した文章とインテリの書いた文章は容易に見分けがつく．しかし，文系ではこうした文章とインテリの書いた文章との見分けがつかないことがある．ある文系インテリが書いた文章が，モンテカルロ・ジェネレータで生成された文章と見分けがつかないのなら，その文系インテリには知能がないと言える．

偶然に振り回されないよう，われわれは常に合理的で科学的であるべきである，とは思わない．芸術や詩の分野では非合理的でよく，偶然に振り回されてかまわない．